

珍客飛来 Part 3

先日、ウェットランドに出勤して観察窓から外をながめていたら、見たことのない水鳥がいることに気づきました。そばに常連のオカヨシガモがいて、それよりもずいぶん小型です。すぐに図鑑を開きたいところですが、いつ飛び立つともわからないので、まずは証拠写真。手持ちの機材ではあまり鮮明に撮れませんが、観察用の望遠鏡でははっきりと見えます。図鑑と照合し、ミコアイサの雌と確認しました。



アイサというのは魚食に特化したカモ科のなかのグループで、「秋沙」の漢字があてられています。この名称は万葉集に出ているそうですが、語源は諸説あってはっきりしません。

さて、今回のミコアイサ。「巫女秋沙」の字があてられています。何で巫女さんなのでしょう。図鑑によれば、成鳥雄の姿を「白い衣を着て目のまわりに黒い入れ墨をした巫女」に見立てた命名、とあります。雌の写真からはピンとこないでしょうが、雄は本当に白装束でパンダ顔なのです。弥生時代では一般的な風習だった顔の入れ墨「黥面」が、万葉集が編まれたころには、巫女さんなどの特殊な立場の人の風習として残っていたものと思われます。